

## (2) 各研修会の概要

### ◆令和5年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（市町事業担当者対象）

- 1 **趣旨** 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。  
県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について情報交換する。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象** (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者  
(2) 各市町生涯学習・社会教育主管課担当者  
(3) 各市町学校教育主管課担当者
- 4 **日時** 令和5年4月27日（木） 14:00～17:00
- 5 **会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）  
または、任意の会場（オンライン参加）

### 6 内容

- 行政説明
- ・滋賀県における地域と学校の連携・協働推進方針について
  - ・事業概要について
  - ・今年度の研修について
  - ・補助金事務および事業実施の留意点について
- 講演
- ・演題:「こどものために みんなで つなぐ 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」
  - ・講師: 文部科学省総合教育政策局CSマイスター  
ひいらぎこども園保育士 西 孝一郎 氏
- 情報交換
- ・県内のプラン事業の推進状況について
  - ・各市町における課題や成果等について

7 **参加者数** 37名（来場23名、オンライン14名）

### 8 講演の概要

目指す子ども像を達成するためには、社会に開かれた教育課程を実施しなくてはならない。また、社会に開かれた教育課程を実施する方策として、コミュニティ・スクールを活用していくこと、さらに教員一人ひとりが、カリキュラムマネジメントを実施していくことについて、4つの観点から図や事例をもとに丁寧な御教示いただいた。また、法令等の文言を参加者のわかりやすい言葉に変換し、「子どものために」「みんなで」「つながって」取り組むコミュニティ・スクールがこれからの教育活動に不可欠であることを、参加者で共有することができた。

### 9 参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールにおける目的、そしてキーワードとなる「熟議」「協働」「マネジメント」の意味について図や事例をもとにわかりやすく伝えてくださった。
- ・「子どものために」学校・地域の大人が手を取り合い、次世代の社会に生きる子どもの育成に関わるべきであると考えた。
- ・昨年度も聞かせていただいて大変わかりやすかった。くり返し聞くことで、より理解が深まった。
- ・大変具体的な説明で、コミュニティ・スクールの意義が腑に落ちた。
- ・学校運営協議会と地域学校協働活動を連携させていくことの必要性を感じた。
- ・コミュニティ・スクールのイメージをしっかりと理解することができた。
- ・コミュニティ・スクールの目指すところについて言語化されており、大変わかりやすかった。
- ・「なぜCSの設置が必要なのか」「どこを目指して事業の推進を図ればいいのか」など基本的なことをわかりやすく説明していただいたので、理解が深まった。
- ・他市町におけるコミュニティ・スクールに関わる取組や悩みについて共有することができ、県の課題や今後の見通しについて理解を深めることができた
- ・導入が進んでいる他市町の様子を聞くことができ、参考にできる内容について活かしていきたい。
- ・他市町の進捗状況や推進する上での課題などが大変参考になった。
- ・共通の課題が見えたり、互いの状況がわかったり、良い場であったと思う。



## ◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（新規導入市町等対象）

**1 趣旨** コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する（予定も含む）市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに、具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。

**2 主催** 滋賀県教育委員会

**3 対象（主に新規導入市町を対象とする）**

- (1) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」担当者
- (2) 各校園の地域連携担当教職員
- (3) 各校園の学校運営協議会委員
- (4) 地域学校協働活動の関係者（推進員、協働活動支援員、学習支援員等）
- (5) 各市町社会教育委員



**4 日時** 令和5年6月6日（火）13:30～16:30

**5 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室

**6 内容** (1) 講演：「これで安心！コミュニティ・スクールと地域学校協働活動  
～ちがいを知れば一体的に進められる～」

講師：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部  
総括研究官 志々田 まなみ 氏

(2) ミニトーク：「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の不安の解消に向けて」

**7 参加者** 110名（来場47名、オンライン63名）

**8 研修会の概要（講演・ミニトークについて）**

志々田氏より、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の違いや、その一体的推進について御教示いただいた。

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させる仕組みである「学校運営協議会」が、教育委員会によって設置された学校のことである。地域学校協働活動とは、教職員と地域住民とが、課題や教育目標を共有し、教育的な役割を自覚し、分担しあったり、協力しあったりしながら子育てを進めようとする地域づくりの取組である。

両者の一体的推進のカギとなるのは、当事者意識を持って、多様な他者と関わりながら、学校・子どもをめぐる教育課題に取り組む大人の存在である。

参加者から出た質問や、市町から募った不安な点や疑問点について、志々田氏から丁寧に回答していただき、自身の役割について具体的にイメージをすることができた方が多かった。

**9 参加者のアンケートより**

- ・今、自校のコミュニティ・スクールはどうかを考えることができた。自校では今年度から全職員が運営協議会に出席し、様々な立場の者同士で話をする機会を持つ。目標実現に向けて話し合える環境ができていることは良いこととわかり安心した。また、皆が当事者意識を持ち、子どものことをたくさん知ってもらえるように仕組んでいきたい。
- ・まずは子どもを見てもらう、ということがベースになるのはその通りだと思う。地域と同じ方向を向いて活動をしていくときに、学校のグランドデザインを共有し、学校の考えていることを示しながら、地域はどんな子育てや地域づくりを目指しておられるのかをこれからも発信・受信していきたい。
- ・地域連携担当教職員の学校での役割はカリキュラムマネジメントであるということだった。学校運営協議会での熟議と学校のカリキュラムをつないでいくには、やはり学校内でビジョンをある程度持つておく必要があると思った。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進のために学校運営協議会の在り方や、役割等が理解できた。当事者意識を持つことや、教育目標を共有することの大切さが分かった。現任校でもコミュニティ・スクールが始まったばかりなので、活動ありきの協議会ではなく、子どもたちに付けたい力を語り合える場にしていきたいと思った。



## ◆県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

- 1 **趣旨** 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象（主に県立特別支援学校関係者を対象とする）**
  - (1) 県立特別支援学校教職員、県立高等学校教職員
  - (2) 県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
  - (3) 各市町担当者、県・市町社会教育委員
  - (4) 「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）
- 4 **日時** 令和5年7月4日（火）13:30～16:30
- 5 **会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室
- 6 **内容**
  - (1) 事例紹介  
テーマ：「草津養護学校におけるコミュニティ・スクール導入から現在まで」  
事例紹介者：草津養護学校 学校運営協議会 元会長 武居 誠 氏  
草津養護学校 副校長 中塚 薫 氏
  - (2) 講演  
演題：「京都市立東総合支援学校のコミュニティ・スクールの取組」  
講師：京都市立東総合支援学校 教頭 鎌田 由佳理 氏
  - (3) グループ別情報交換
- 7 **参加者** 39名（来場21名・オンライン18名）
- 8 **事例紹介・講演・グループ別情報交換について**

事例紹介では、県内の県立特別支援学校で初めてコミュニティ・スクールを導入された草津養護学校の取組について、武居元会長と中塚副校長に御紹介いただきました。学校運営協議会設置によるビジョンの明確化、委員の選定、会長の思いに沿った運営方法について詳しく教えていただきました。

講演では、全国的にも早期に導入された京都市立東総合支援学校の鎌田教頭より御講演いただきました。「主体的に活動する子ども」、「人とものを大切にする子ども」を育むための様々な活動を御教示いただき、滋賀県内の今後のコミュニティ・スクールの取組に多くのヒントをいただきました。

グループ別情報交換では、これからCSを導入する学校と既に導入している学校の交流や、異校種の交流により広い視野でCSについて考えていただく機会となりました。

### 9 参加者のアンケートより

- ・具体的に立ち上げの様子や御苦労、年々重ねる組織拡大や取組が大変わかりやすく、参考になりました。自校で立ち上げるとしたら、そのメンバーやテーマ設定、どのように周囲を巻き込んでいくか、など考えることも多かったです。
- ・「地元・地域の方に守られる安心をめざして」という思いがよく伝わってきました。
- ・京都の支援学校の仕組みやコミュニティ・スクール京都方式、各学校の活動を知り、参考となる取組がありました。「発信する」「理解していただく」大切さを感じました。
- ・「地域の子は地域で育てる」という考え方が印象的でした。学校種や地域の差によってこれほどアプローチが異なるものかと感じました。参考にしたいです。
- ・他校の実践を知る機会があり大変参考になりました。特に、学校全体の教職員や保護者への周知については、学校運営協議会通信の発行を検討されている例もあり参考になりました。



## ◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象）

- 1 趣旨** 将来を担う子供たちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙い、対象者への研修会を開催する。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) コミュニティ・スクール、地域学校協働活動をすでに導入している（導入2年目以上）市町担当者、および市町立校園関係者  
(2) 学校運営協議会 関係者  
(3) 地域学校協働活動 関係者（推進員・地域コーディネーターなど）  
(4) 県および市町の社会教育委員  
(5) 教職員
- 4 日時** 令和5年10月12日（木） 13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁新館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）※オンライン参加も可。
- 6 内容** パネルディスカッション（参加型）  
テーマ『『ともに考える』～コミュニティ・スクールの未来像～』  
・パネリスト（3名）：大谷 裕美子 氏（文部科学省総合計画政策室CSマイスター 大阪府・奈良県社会教育委員 河内長野市立美加の台中学校区 ゆめ☆まなびネット代表コーディネーター）  
関川 雅之 氏（竜王町地域学校協働本部統括マネージャー）  
小柳 真一郎 氏（近江八幡市立八幡中学校 主幹教諭）  
・助言・総括：大谷 裕美子 氏
- 7 参加者数** 88名（来場45名、オンライン43名）
- 8 研修会の概要**

### (1) パネルディスカッション1の概要

事業を推進していく上での課題や悩み、困っていることについて事前に参加者にアンケートを実施した（Google フォームを利用）。アンケート結果で多かった「働き方改革」、「一体的推進」、「人材確保」について3名のパネリストから話題提供をもらい、ディスカッションを行った。

「働き方改革」について小柳氏は、様々な教育活動に地域の方が参画されることが「働き方改革」につながると八幡中学校での実践事例を紹介された。人材確保のために、地域・行政・企業とリンクし、「まちコイン」を利用していることや課題について教育現場からの視点で語っていただいた。

「一体的推進」について関川氏は、学校運営協議会と地域学校協働本部をつなぐ統括マネージャーの立場から竜王町の実践事例を紹介された。学校運営協議会と地域学校協働本部が「共通する目標」を持ち、学校が行うこと・地域が行うこと・CSが行うことのすみわけが重要であると語っていただいた。

「人材確保」については、大谷氏は、地域の方が学校に入っていくやすいように、楽しいことから始める「ボランティア活動のハードルを低くする」ことについて、実践事例を紹介された。地域の方の参画には、学校運営協議会を中心に、学習課題の解決のために必要な方々に依頼することが重要であると語っていただいた。

### (2) パネルディスカッション2の概要

パネルディスカッション1を聞いた参加者に「学びのキーワード」についてのアンケートを実施した（Google フォームを利用）。回答を集約し、AI テキストマイニングで提示し、「わからないこと」を中心にパネリストがディスカッションを展開した。大谷氏は、「ボランティアの選定の方法」について学校・子ども・教員の安心安全を守るために、適材適所にコーディネートしていくこと、小柳氏は、学校をよくしていくための熟議に地域の方が参加されている「八中サミット」を紹介された。

最後に「持続可能な取組にしていく」ために、三者それぞれのお立場から「人が変わっても大事にしていくことを引き継いでいくこと」、「コミュニティ・スクールの活動そのものが持続可能な取組であること」、「地域連携担当者を複数にし、学校内で引き継ぎが円滑に行われること」等を語っていただいた。

総括・助言として大谷氏から「一体的推進」について自転車の図を使って、わかりやすく説明いただいた。また一体的推進を進めていく上での学校運営協議会の重要性、人材発掘のスリーステップ「参加・手伝う・企画」、地域の方が参画したいと思う「しかけ・きっかけ・声かけ」（3つのかけ算）について実践事例をもとにわかりやすく御教授いただいた。

### 9 参加者のアンケートより

- ・人材確保ということが一番の悩みであったが、パネリストの方の話を聞く中で、そのために学校運営協議会があるということを知り、納得し安心した。委員の方々は力強い味方だと思って、ともに目標に向かって進んでいきたい。
- ・コーディネーターの役割が大きいと改めて感じた。自転車の図もよくわかった。持続可能な活動にするための考え方、ポイントもわかりよかった。
- ・これからも今までの場所にとどまることなく、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思う。



## ◆「学校を核とした地域力強化プラン事業」成果報告会

- 1 趣旨** 標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の報告をもとに「地域とともにある学校づくり」に関する情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の連携の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) 地域学校協働活動関係者（推進員、地域コーディネーター、ボランティア等）  
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者（協議会委員等）  
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者  
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者（行政担当者等）  
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員  
(6) 県および市町の社会教育委員  
(7) 社会教育士
- 4 日時** 令和6年1月19日（金）13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室
- 6 内容** ・報告① 甲賀市立貴生川小学校 貴生川小学校地域学校協働本部  
「貴生川小学校における学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進」  
～はじめよう やってみよう～  
貴生川小学校地域連携担当教職員 福井 里江子 氏、推進員 沢井 譲 氏
- ・報告② 米原市立米原中学校 米原中学校地域学校協働本部  
「人をつなぎ、学びをつなぐ場面の創出をめざして」  
～米原中学校（校区）の地域連携について～  
米原中学校 教頭 村居 雅道 氏、推進員 角田 義明 氏
- ・講評：「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏
- 7 参加者数** 116名（来場39名、オンライン77名）

### 8 報告・意見交流の概要

貴生川小学校では、学校運営協議会と地域学校協働本部を明確に構想図の中に位置付け、一体的推進を図ってきた。結果、「HelpからAssistへ」を合言葉に学校支援ボランティアが自主的に企画したり、コミュニティ・スクール「ふるさと部会」と共に社会に開かれた教育課程を実現できたりしている。学校運営協議会の議事録や、ボランティアの募集などをHP上で広く情報発信されている。

米原中学校では、「人をつなぎ 学びをつなぐ」場面の創出をテーマに、子どもも大人も地域一丸となって地域と仲間、学びと学びをつなぐ場面を創出することを推進してきた。そのために保護者や地域住民がともに学校運営に関わり、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し、農園活動やかまどベンチ製作をはじめとするさまざまな活動を行ってきた。

持続可能な取組にするため、子どもの育ちというねらいがぶれないよう、焦らずに積み上げていくことが必要である。

### 9 参加者のアンケートより

- ・きちんと構想を練り、目指す方向や思いを共有しながら連携することの大切さを改めて感じた。何より「ボランティアさん・サポーターさんはお手伝いさんではない」という当たり前のことをはっきり言われたのが、すっきりした。

- ・講評からは、改めて「何をめざしているか」「どんな子どもに育てたいか」「ぶれない目標」「委員や教職員がコミュニティ・スクールについて語れるか」ということを、取組を進めていく中で常に振り返りながら進めていかなければならないことに気付くことができた。



## ◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

核家族化、地域のつながりの希薄化、コロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な状況が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や児童虐待等、子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては家庭の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。

そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む関係者等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進方策等について学び、情報交換や情報共有することで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修会・交流会を実施する。

- 3回シリーズとして実施。1回目は家庭教育支援の基礎を学ぶ機会に、2回目は、専門的なスキルアップを目指す機会に、3回目は県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会とする。
- 受講対象者を広げるとともに、参加者も家庭教育関係者をはじめ、子ども食堂関係者やフリースクール関係者等も幅広く参加いただき、滋賀県内の家庭教育支援のつながりをつくる機会にもなっている。

### 1. 家庭教育支援基礎研修会（家庭教育支援の基礎を学ぶ機会）

日 時	令和5年6月22日（木）14:00～17:00	参加者数:84名
会 場	滋賀県庁東館7階大会議室（オンライン参加も可）	
内 容	○情報提供「滋賀県の家庭教育支援の取組について」 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 ○講演：「かしこく、元気に、機嫌よく ～地域で支える家庭教育～」 講師：鈴木 みゆき氏（國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授） ○情報交換：「各地域での家庭教育支援について」「家庭教育支援で困っていること」等	

### 2. 家庭教育支援専門研修会（専門的なスキルアップを目指す機会）

日 時	令和5年9月14日（木）13:30～16:30	参加者数:103名
会 場	滋賀県庁東館7階大会議室（オンライン参加も可）	
内 容	○実践事例発表：「中央中学区 朝ごはんプロジェクトの取組から」 発表者：彦根市立中央中学校 教頭 松田 暁郎 氏 ○講演：「つながりにくい親子に 光を届ける」 ～支援者の心得・関わり方・支援の広げ方【相談援助編】～ 講師：上村 文子 氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー） ○グループ別協議：「支援が届きにくい家庭への効果的な対応について」 ファシリテーター：西村 喜久子 氏（滋賀県スクールソーシャルワーカー）	

### 3. 家庭教育支援実践交流会（県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会）

日 時	令和6年1月25日（木）13:30～16:30	参加者数：46名
会 場	滋賀県立男女共同参画センター 大ホール	
内 容	○実践事例発表 ・事例発表1：『効果的な事業展開 ～野洲市の取組～』 野洲市教育委員会事務局生涯学習課 参事 菱沼 由美 氏 ・事例発表2：『地域からの支え方 ～家庭教育支援チームの取組～』 近江八幡市立武佐小学校家庭教育支援チーム 家庭教育支援員 富岡 早苗 氏 ○助言：上村 文子 氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー） ○情報交換：「家庭教育支援活動の成果と課題」「来年度に向けて」等	

※令和5年度参加者合計：233名

#### 《全3回の参加対象者》

国庫補助事業実施および実施検討市町担当者、学校関係者、家庭教育支援員、家庭教育支援チーム関係者  
各市町教育委員会家庭教育担当者、各市町教育委員会生徒指導・教育相談担当者、各市町児童福祉主管課子育て支援担当者、民生委員・児童委員、子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、子ども食堂関係者、フリースクール関係者、県および市町の社会教育委員、社会教育主事、社会教育士等